

評価確定日:令和4年3月24日(木)

行政報告日:令和4年3月25日(金)

(別紙2-4)

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	(福)苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市から千葉県、埼玉県で老人医療福祉医療について事業を展開しています。事業所は開設13年目。 ・利用者様を「お客様」にせず、自宅で生活していくために必要な家事や運動機能について職員と一緒にしながら維持、改善していくこと、訪問・通い・宿泊といったサービス調整で入所せずに自宅での生活が継続できることを目的としています。 ・認知症介護実践者研修に職員を積極的に輩出し認知症になっても住み慣れた地域で生活ができるよう地域理解や、周辺症状の改善に繋がるケアについて考え実践しています。
事業所名	健康倶楽部ゆざわ	管理者	小野塚智世		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1名	1名	3名	0名	3名	1名	1名	2名	0名	13名

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	お客様担当がよりよい認知症ケアを行えるよう、認知症介護実践者研修修了者とケアマネ、認知症介護実践リーダー研修修了者で、認知症対応チームを形成し、ケアの評価を行いながらお客様に合わせたケアを行えるようになる。 記録の電子化を含め、ipadを活用しICTを活発化していく。 職員個々がお客様の情報を読み込む時間を作り、ケアに反映させていく。	新規のお客様ご利用時は、認知症介護実践者研修修了者とケアマネ、認知症介護実践リーダー研修修了者を中心にミーティングでお客様のケアについて話し合うことが出来た。 ipadの使用方法を職員に周知する事で全員が使用方法を理解しipadでの記録をすることが出来た。 申し送りに関する書類を事務所に置き、出勤前に事務所で申し送りを読み込んでから現場に来ることでケア方法の変更があった時は職員に周知することが出来た。	改善されている様子がよく分かった。 成年後見について分からないや答えていない人がいる事が気になった。	センター方式シートをさらに活用するために、センター方式シートの置き場所・記録方法・見直しの時期などを決めることで確実な情報収集ができ、お客様の望むケアが行えるようになる。 お客様の日常生活に必要な制度や事業について職員が学ぶ機会を作り資質向上に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	新しい生活様式を取り入れた中でも、お客様が落ち着いて過ごせる環境作りを適宜行う。 屋外での相談スペースの設置も含め、施設に来られた方が安心して過ごせる環境を作る。	テーブルにアクリル板の衝立を設置する事で、お茶の時間や食事の時にも今まで通りお話ししながら過ごして頂けた。 野外の相談スペースを設置する事は出来なかったが、コロナウイルスの感染状況を見ながら窓越し面会や相談室に衝立を設置し面会をしてもらった。	コロナ禍で入りやすいとか、屋内での状況とか見えない部分が多すぎた。大人あつて設問の評価が難しかった。 新しい生活様式でテーブルに衝立をしているが花のシールを貼ったりと工夫されておりお客様も喜んでいる姿が見られた。 施設に入りやすいかというと何度か来ているので抵抗はない。 親が利用しているので行くのを楽しみにしている話を聞くと、来て楽しくて居心地が良いのではないかと思った。	感染対策を考慮しつつ、お客様が窮屈に感じることのない環境づくりを行う。(テーブル配置、ソファの検討)
C. 事業所と地域のかかわり	認知症カフェや毎年行ってきた納涼祭の開催に向けて、前向きに検討し早期に地域の方との交流の機会を作っていく。 活動報告は継続し、地域の方に施設の活動について理解していただける情報を公表していく。 アクション農園への参加を活発化させることで、地域ボランティアとの関係性を構築する。	コロナウイルスの影響で認知症カフェは今年中は外部の方をお呼びする事は出来なかった。 2か月に1度、職員の活動をメインにしたお便りを作成し、地域に向け回覧し施設の活動について知って頂く機会を作ることが出来た。 アクション農園へは天気の良い日は出来るだけ参加し、地域の方やボランティアの方との交流できた。	地区の川掃除に出ている話を聞いている。アクション農園はコロナの影響で余り参加はできなかったが参加する意欲は理解しているので評価した。アクション農園で地域の方と皆さんと一緒に枝豆をいじりお茶のみをしているので交流はあると思う。 インスタや広報で外との繋がりを持ち周知に力が入っている。 健康倶楽部は個々では知られているが町全体として考えると知れ渡っていない。 ネットワーク作りで民協の協議会に参加し民生委員と関わりを持って行くといいと思う。	感染予防を考慮しながら、町の行事には出来る限り参加し、地域との交流が途切れぬよう活動していく。(アクション農園、町の清掃活動、花壇整備等)参加にあたっては、お連れしたお客様だけでなく、そこに参加するすべての方とコミュニケーションを図るようにすることで、施設を知っていただく場として活用する。 認知症カフェ開催について、再開にむけて感染状況等を鑑みながらその方法を検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	認知症サポーター養成講座開催時にはキャラバンメイトを講師として派遣し、認知症の方が安心して暮らせる町作りにかかわっていく。 認知症カフェの早期の再開やアクション農園倶楽部への参加を通じて、地域の心配な方に関わる場面を増やしていく。	認知症サポーター養成講座を開催し、未受講の職員も参加しながら地域の方と認知症について学ぶと同時に一緒に認知症ケアについて考える機会が出来た。 認知症カフェは再開できなかったが、アクション農園に参加した時はお客様と地域の方を交えながら話が出来た。	地域での会議は湯沢全体ととらえるとしていないと思う。 コロナ禍なので仕方ないが利用者も地域と関わっていないが、今まで地域と関わってきたことはわかっている。 今年はイベントも中止だったので仕方ない。 アクション農園には参加できている。	職員一人一人が地域との関わり方を考えられるように、湯沢町の地域資源についての勉強会を行う。 自施設も資源であることを理解した上で、他の地域資源も活用することで利用者本人の生活地域での暮らしを支えていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の奉仕作業やその他の活動について一緒に活動した記録や、町の取組みにかかわった内容については会議の中で報告していく。 外部評価の改善対策の進捗を毎回の会議の中で報告を行うことで、確実な改善の機会を作っていく。(レジュメや活動報告書を活用する)	運営推進会議時には企画や防災訓練の様子を写真などで可視化し、報告の際は目で見て分かるようにした。 外部評価の進捗については口頭だけの説明では分かりづらいところもあったので、どう改善に取り組んでいるのか写真や実物を見ながら説明を行った。	今まで事例検討会は行われていたのか分からない。 民生委員から地域の方の情報を得るのは守秘義務があるので難しいと思われる。 名前を伏せて現在利用しているお客様の情報をもとに、どんな方が利用に繋がりがやすいかケースを紹介してみてもどうか。 どんな人が使えるのか分からない可能性もある。	新たに利用の始まった方のケース紹介、事例検討を行うことで、小規模多機能の利用者の実態について理解を深めていただく。 その中で、お客様への対応について会議メンバーの方より意見をいただき、ケア向上の機会や新規利用者の獲得に繋がる情報共有を行う。 前年度のお客様アンケートの意見に対する改善策の実施状況を報告し、改善に向けたより具体的な意見をいただく場としていく。
F. 事業所の防災・災害対策	毎年第1回の会議において施設の防災計画を資料として配布し、施設の対応についてお知らせする。 防災訓練への見学する機会を作るだけでなく、感染症や災害のBCPも見えていただき有事の際に、施設が行う活動についてご理解いただく。	施設の防災計画をもとに対応について説明を行えた。 総合防災訓練を実際に見学していただき、訓練の様子を見てもらえた。訓練後も改善した方がよい点などご意見を頂き参考になった。来年度も参加の機会を作っていきたい。	活動報告が分かりやすかったため現状が見えてきた。コロナでは施設の中が見えず特にわからないことが多いので参考になる。 災害時の避難所になっていることを知らなかった。 防災訓練には参加したが、湯沢町は災害が少ないので今の方法で大丈夫なのかはわからない。	健康倶楽部ゆざわが福祉避難所であることを地域の方知っていただき、緊急時はいつでも頼っていただけることを伝えていく。 上期、下期に各1回ずつ、運営推進会議メンバーに総合防災訓練に参加していただきご意見をいただくことを継続していく。 実際に起きた感染症等の対応について報告し、事業継続計画の見直しの場の一つとする。